

東海大学 文化社会学部

ヨーロッパ・アメリカ学科

ニュースレター

2017年秋号



教員の夏休み～スロヴァキアでの研究調査～

8月19日から27日まで、東欧のスロヴァキア共和国に研究出張しました。毎年2回は長期休みを利用して現地を訪れていますが、今回は、ジャコバン主義に関する史資料の蒐集および現地研究者との打合わせを主な目的としました。ここでは皆さんに、歴史学の研究調査の一端をお伝えしましょう。

19日から22日まで、首都ブラチスラヴァで18世紀の史資料の蒐集を行いました。まず古本屋をチェックします。その後、スロヴァキア国立文書館を訪れ、史料をデジカメで撮影します。上のタイトルバックの写真はその一枚です。18世紀の史料を手にとると、そこから当時の人々が語りかけてきます。そのときの興奮たるや、これに勝るものはありません。多民族地域の東欧の歴史を研究するには、五か国語は必須です。私の場合、スロヴァキア語だけでなく、チェコ語、ドイツ語、ラテン語、ハンガリー語文献の解読が必要なので、いつも数百ページは複写しています。

さて、複写の合間を縫って、若手歴史家たちと研究会を行いました。親しくしている同年代の友人たちが、日本の大河ドラマに相当するような番組の時代考証を行うなど、テレビに頻繁に登場しています。彼らの活躍をみると、日本とはまた異なる刺激を受けます。研究会では、私の研究の進捗状況をレジュメにして発表します。激しい議論になりますが、これは、研究者にとって、知的好奇心を満たす大切な

行事のようなものです。

次に、23日から26日まで、現在研究している18世紀の知識人の故郷モドラに行き、地方史研究者たちと会合を持ちました。下の写真はそのときの模様です。スロヴァキアの小さな都市に日本の研究者が訪問するのはとても珍しく、到着するなり大歓迎です。今回は、新聞記者のインタビューも受けました。

最後にひとつ。最終日に、(とくにスポーツをしたわけでもないのに)右足ふくらはぎに痛みが走り、肉離れを起こしました(笑)。こういうときは現地にどれくらい幅広く友人がいるかが重要になります。たまたま元テニスプレーヤーの友達がいて、見事に処置してくれました。

(中澤達哉 准教授)



Reino de España



古都サラマンカ への留学



私は2016年10月から翌年の6月までの8ヶ月間、スペインのサラマンカに留学しました。大学で習ったスペイン語を実際に使ってみて、もっと話せるようになりたいという思いから留学を決意しました。スペイン北部の町サラマンカは、一部が世界遺産に登録されるなど、歴史ある美しい町です。

他にもスペインへ行ったらやりたいことがありました。そのひとつがイベリア半島のごく一部にしか生息していないスペインオオヤマネコという絶滅危惧種を生で見ることでした。スペインオオヤマネコはチーター柄で、あごの左右に髭をたくわえるダンディで綺麗な大きな猫です。実際に見た時の感動は今でも忘れません。スペイン南部のヘレス・デラ・フロンテーラという小さい町の動物園で見ることができました。ツアー旅行ではまず訪れることのない小さな町に行くことができるのは、長期留学のいいところです。

もちろん遊んでいただけではなく、1年近くスペイン語を使って生活することで、以前より語学力に自信ができました。完璧にスペイン語を話せる外国人はいないかもしれませんが、わからなくても、間違ってもいいのです。話すこと、使うことこそが大事です。語学はそんな開き直りが大事だと体感しました。

小島祥富

(ヨーロッパ文明学科4年、都立東高校出身)

United States of America



シラキュース大学 留学体験記

僕は三年生の時にアメリカ合衆国ニューヨーク州にあるシラキュース大学に約8ヶ月間、留学をしました。シラキュース大学はスポーツや行政学の分野において有名な大学であり、米国元副大統領やバスケットボールのスター選手などを輩出しています。

アメリカでは寮生活で毎日が刺激的でしたが、大変なこともありました。大学ではみっちり授業をして、毎晩遅くまで宿題やプレゼンの練習の日々。個人的には肉ばかりのヘビーな食べ物やこれまで経験したことのない大寒波に滅入りそうなこともありました。

それでも様々な国から来ている多様な学生と週末のパーティをしたり、フットボールを観戦したり、車で何十時間もかけて旅行するのは格別でした。それは英語を実践的に学ぶ稀有な機会でもありました。クラス以外の場所で積極的に英語を使うことが上達への近道です。

僕は友人に恵まれました。なかには僕に会うために、わざわざ日本に遊びに来てくれた友もいます。他の国に僕をブラザーと呼んでくれるような一生の友人たちを得られたことは、語学を学ぶ以上の価値があると思います。

最後に、ただ留学をしたからと言って語学が身につくわけではありません。勇気と積極性を持って留学に挑戦してみてください。一生の友人を得る貴重な体験ができると思います。

渋谷康太

(ヨーロッパ文明学科4年、和光高校出身)





ベルリンでの 一年



私は、大学4年生の9月から約一年間、ベルリンのフンボルト大学に留学し、ドイツの文化や政治、歴史について、ドイツ語で授業を受けました。高校生の頃から、世界史が大好きで、一番関心があったドイツへ行くことが夢でした。大学では、一年生の頃からドイツ語を受講し、ドイツ語検定を取得するなど、語学の勉強に励みました。その結果、ドイツへ長期留学に行くことができました。

しかし、留学生活は想像と全く違っていました。食文化や政治の状況、生活していくための様々な手続きに苦戦しました。そのなかでも私が一番悩まされたのが「冬」です。ドイツの冬は日照時間が短く、4時ごろにはもう暗くなります。寒さも厳しく、とても辛かったです。日照時間が短いのに、太陽はほとんど出ず、曇りや雪ばかりで、不安定な天候でした。毎日どんよりとした天気、大学に行くことが憂鬱なときもありました。

そのように感じていたころ、11月の中旬から、クリスマスマーケットが始まりました。ベルリンでも、他の地域でも、小さな露店が並び、寒い冬の街を明るく照らしました。冬休みに入りドレスデンに出かけて、有名なクリスマスマーケットを楽しんだのは、忘れられない素晴らしい思い出です。長期留学だからこそ、季節の変化を感じ、その季節に合わせた文化の意味を知ることができました。様々な経験をした留学生活でON、OFFを切り替えながら、充実した一年を過ごすことができました。

佐藤一樹

(ヨーロッパ文明学科4年、豊島学院高校出身)

ヨーロッパ実地研修

報告記

2017年度のヨーロッパ実地研修では、「ユダヤ人迫害の歴史を巡る」というテーマのもと、ドイツ・ポーランドを12日間旅しました。ドイツは、ミュンヘンを中心にフランクフルト、ニュルンベルク、ローテンブルク、ダッハウを巡りました。そしてポーランドでは、ワルシャワ、クラクフ、ルブリンを訪れました。

前半の6日間はドイツで、市庁舎や旧市街、大聖堂など、観光を中心に過ごしました。自由行動の日には、フランクフルトから2時間かけてケルン大聖堂を見に行きました。ドイツで会った人たちは気さくな人たちが多く、中には日本語で話しかけてくれる人もいました。

後半のポーランドでは、宮殿や織物会館を見学しました。そして、この旅のメインテーマであるアウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所やゲットー地区に行き、ユダヤ人の迫害の歴史を学びました。強制収容所の中でも最も悲惨なアウシュヴィッツを訪れ、大量殺害の場を目の前にすると胸にこみ上げてくるものがありました。刈り取られた髪の毛や使われていた食器が展示されていました。知識として学んだものを実際に自分の目で見て、ユダヤ人への迫害の凄まじさを知ることができました。

この実地研修を通して、ずっと行きたかったドイツの街並みや風景、文化に触れることができました。日本にはない城壁に囲まれた街や市場の賑わい、聞こえてくる音楽。五感の全てで憧れであったヨーロッパを感じ、常に胸が踊っていました。また、大学の講義で学んだ知識を実際に目で見て確かめることができたことは、とても貴重な経験になりました。

高尾彩美

(ヨーロッパ文明学科2年、晴海総合高校出身)





学科シンポジウム

2017年7月25日に学科教員が発表するシンポジウム『『危機』のあらわれ』を開催しました。いろいろな時代、場所で秩序が揺らいだ例を取り上げ、不安や脅威、戦争や破壊、カオスなどがいかに語られたのか、またそこからいかに新しい現実認識が作られたのかを問う試みでした。

ローマの詩、ルネサンスの文学、中世から現代にいたる宗教画、さらには20世紀の映画まで、幅広い分野を横断して「危機」を考えるなかから、過去と現在を見つめ直す視点が議論されました。

教員や大学院生にとっては刺激的な研究に触れることができましたし、学生にとっては大学で学ぶ目的や手法について深く知ることができるよい機会となりました。

ヨーロッパ・アメリカ学科ができました！

2018年度から、文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科が新設されます。

学科の特徴は、古代から現代までの広い地域を、様々な観点から学べることです。たとえば、古代ギリシアについては、神話・文学・美術・歴史・思想・言語の授業があります。アメリカを扱うときにも、政治や現代社会の問題から映画や観光まで、またネイティブ・アメリカンから見た合衆国、マイノリティへの注目など、多様な講義が用意されています。

「好きなこと」を多角的に学ぶことのできる学科。それが私たちの目標です。



東海大学文化社会学部 ヨーロッパ・アメリカ学科

■お問い合わせ・資料請求などは下記まで

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1 東海大学湘南キャンパス
TEL: 0463-58-1211 (代表) → 内線 3067 (3号館6階事務室)

■WEBで学科情報を配信しています

<http://www.u-tokai.ac.jp/new2018/culture.html> (東海大学文化社会学部)
<http://www.europe.u-tokai.ac.jp/> (ヨーロッパ文明学科サイト)

■入試情報→ 出願期間や入試方式などの公式情報は、大学サイト「入試情報」または入試要項をご参照ください

文系・理系学部統一入試試験	2018年2月2日(金)
一般入試A方式(受験日自由選択)	2018年2月7・8・9日
一般入試B方式	2018年2月28日(水)

ヨーロッパ・アメリカ学科の教員による出張講義などのご要望にもお応えいたします。

お問い合わせは下記の金沢まで。

発行責任者：金沢百枝 (かなざわ ももえ：ヨーロッパ文明学科主任) momokanazawa@tokai.ac.jp

